



地球大学アドバンス 第31回

[TOKYO SHIFT シリーズ 第3回]

TOKYOが牽引する日本のエネルギー構造改革

2010.6.28 mon

この4月から丸の内・新丸ビルで始まった「生グリーン電力」——。従来のグリーン電力は、自然エネルギーの付加価値を電力証書という形で購入する名目上のもので、実際に送られてくる電力自体は自然エネルギーに限定することは出来ませんでした。それに対し、今回のプロジェクトは、東北地方の風力や北海道の水力発電と直結した送電システムにより、実際に自然エネルギーだけで東京の巨大オフィスビルの電力を100%賄おうという野心的なもの。これは東京に風車を立てなくても、東京と地方の「地域連携」によって日本全国に風車を増やす牽引力に東京はなりうる、ということを示しています。

とはいえ電力需給の変動を考えれば、“100%グリーン電力”をつねに達成するのは容易ではありません。エネルギー構造改革は発電のグリーン化だけでは達成できず、創った電気を多様なかたちで貯め、あるいは余った電力を地域間で柔軟に融通しあう仕組みが必要となります。また需要側—供給側双方がリアルタイムに協調しあって、電力のピークロードを抑えながら無駄な発電やコストを削減してゆく“スマート”な電力網とプロシューマー型コミュニティのデザインが重要です。いわば都市の呼吸のように変動するエネルギー需給をホロニックに調節する、感覚神経系を備えた都市インフラの構築。そこでは蓄電機能を備えた電気自動車(EV)や個々の家庭も、都市のなめらかな呼吸を担う細胞(アクター)として参加してゆくことになるでしょう。今回はこうした問題を都市・ビルマネジメント、スマートグリッド技術、そして自動車も含めた都市インフラ・デザインという3つの専門の立場から論じていただきます。

[topics]

- “生グリーン電力”を導入した都市マネジメント: その背景、可能性と難しさ
- 日本型スマートグリッドの可能性~需給調整の双方向化・シグナル化、プライシング
- 自動車を未来の電力ネットワーク端末として位置づける社会ビジョン
- プロシューマーによるスマート・コミュニティ形成~それを促進する社会制度設計
- 巨大なエネルギー需要地・需給調整地としてのTOKYOのポテンシャル
- 地域(電力供給地)での経済活性の具体化(産業創出、雇用等)

開催概要

日時: 2010年6月28日(月) 18:30~21:00

ゲスト: 山家 公雄 氏

(エネルギー戦略研究所株式会社 取締役 研究所長)

福泉 靖史 氏

(三菱重工業株式会社 エネルギー・環境事業統括戦略室 次長)

井上 成

(三菱地所・都市計画事業室副室長/エコツェリア協会事務局長)

企画・司会: 竹村 真一 氏

Earth Literacy Program 代表

エコツェリア・コンテンツプロデューサー

会場: 新丸ビル10階「エコツェリア」

地図: <http://ecozeria.jp/access.htm>

定員: 50名(定員になり次第締め切りとさせていただきます)

参加方法: 事前登録が必要で

事前登録URL <http://www.ecozeria.jp/earth/>

参加費: エコツェリア会員企業に所属の方: 無料

*名刺にて照会いたします。名刺(社員証)を必ずご持参下さい。

エコツェリア会員企業非所属の方: 有料2,000円

プログラム 18:00 受付開始/18:30 開演/21:00 閉会